



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月12日

上場会社名 ロート製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4527

URL <https://www.rohto.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 濑木英俊

問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 CFO

(氏名) 斎藤雅也

(TEL) 06-6758-8223

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	253,071	12.0	33,575	5.1	39,852	20.5	28,279	14.3
2025年3月期第3四半期	225,895	12.3	31,960	△9.4	33,076	△11.2	24,744	△5.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 33,500百万円(△29.7%) 2025年3月期第3四半期 25,831百万円(△29.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
		円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	125.15	121.12	
2025年3月期第3四半期	108.46	108.15	

(注) 2026年3月期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2026年3月期第3四半期	460,668		304,857		62.3	
2025年3月期	437,039		280,737		60.2	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 287,074百万円 2025年3月期 262,990百万円

(注) 2026年3月期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 16.00	円 銭 —	円 銭 20.00	円 銭 36.00
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 21.00	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 44.00
2026年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	340,500	10.3	40,500	5.9	46,500	17.1	33,000	7.0	146.04	

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 対前期増減率は、2026年3月期第1四半期連結会計期間において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した遡及修正後の数値で算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1社 (社名) ロート・メディリュクス・ヨーロッパ社 除外 一社 (社名) —

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期 3Q	236,178,310株	2025年3月期	236,178,310株
-------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2026年3月期 3Q	10,213,970株	2025年3月期	10,213,934株
-------------	-------------	----------	-------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2026年3月期 3Q	225,964,362株	2025年3月期 3Q	228,138,753株
-------------	--------------	-------------	--------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無

監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続いたほか、円安基調を背景とした訪日外国人旅行者数が高水準で推移し、緩やかな回復基調を維持しました。一方で、食品価格を中心とした物価上昇の長期化が家計に影響を及ぼし、消費者の節約志向は依然として強く、個人消費は持ち直しの動きが見られるものの、力強さを欠く状況が続きました。海外経済においては、米国の金融政策や通商政策を巡る先行き不透明感が引き続き景気の下押し要因となったほか、中国における景気回復の遅れが継続しました。また、ウクライナ情勢や中東情勢をはじめとする地政学リスクの長期化により、資源・資材価格や為替相場は不安定な推移となり、国内企業においてはコスト上昇圧力や事業環境の不確実性が継続しています。こうした環境のもと、内外の経済動向は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、2025年5月13日に「ロートグループ 中長期成長戦略 2025～2035」および「長期視点での成長を実現するための経営方針」を公表いたしました。当社の存在意義（ペーパス）は、「世界の人々に商品やサービスを通じて『健康』をお届けすることによって、当社を取り巻くすべての人や社会を『Well-being』へと導き、明日の世界を元気にすること」と定義しており、その実現に向けて日々取り組んでおります。

その結果、売上高は2,530億7千1百万円（前年同期比12.0%増）と大幅な増収となりました。国内におきましては、お客様のニーズに合った商品提案やインバウンド需要の増加により増収となりました。海外におきましては、円高の影響があったもののお客様のニーズに合った商品提案に加えて、シンガポールの漢方薬等製造販売企業であるユーヤンサン・インターナショナル社やオーストリアの医薬品・医療機器等製造販売企業であるモノ社の業績を前第3四半期連結会計期間より連結の損益に含めることにより大幅な増収となりました。

利益面につきましては、原価率の上昇があったものの増収効果により、営業利益は335億7千5百万円（同5.1%増）、経常利益は398億5千2百万円（同20.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、282億7千9百万円（同14.3%増）の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(日本)

外部顧客への売上高は、1,266億7千7百万円（前年同期比0.3%増）と増収となりました。

サプリメントの「ロートV5」、新製品が好調なリップクリーム、前期に新発売したヘアマスク「GYUTTO」、「肌ラボ」や目薬が好調に推移いたしました。国内グループ会社におきましては、ロートニッテン㈱や天藤製薬㈱が増収に寄与しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、当社は増益を維持したものの、連結子会社の減益の影響により、179億6千3百万円（同2.8%減）と減益となりました。

(アメリカ)

外部顧客への売上高は、155億5千4百万円（前年同期比2.7%増）と増収となりました。

医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス・ラボラトリーズ社が引き続き好調に推移しました。また、「肌ラボ」や医療用眼科事業が好調なブラジルの連結子会社も増収に貢献しました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、販売費及び一般管理費が増加したことにより、10億1千7百万円（同6.2%減）と減益となりました。

(ヨーロッパ)

外部顧客への売上高は、171億6千5百万円（前年同期比28.0%増）と大幅な増収となりました。

ポーランドのダクス・コスメティクス社が「Perfecta」や「Hadalabo Tokyo」の好調を受け増収に貢献しました。また、点眼薬「ロート ドライエイド」や「ロート ドライエイド フレッシュブースト」も順調に推移しました。加えて、モノ社も売上に貢献しています。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、英国において消炎鎮痛剤の容器供給業者の倒産による生産量低下と代替業者の単価上昇により原価率が上昇したことに加え、販売費及び一般管理費が増加したことで、5億7千9百万円（同40.4%減）と減益となりました。

(アジア)

外部顧客への売上高は、910億8千7百万円（前年同期比32.9%増）と大幅な増収となりました。

ベトナム、インドネシアなどの東南アジアが引き続き好調に推移しました。また、原材料や製品の輸入が困難であったミャンマーで、第2四半期に輸入ライセンスを取得できることにより生産が可能となり増収に貢献しました。加えてユーヤンサン・インターナショナル社が売上に寄与しました。商品別では「肌ラボ」、「アクネス」、フケ抑制シャンプー「セルサン」、目薬等が増収に寄与いたしました。

セグメント利益（営業利益ベース）につきましては、132億8千3百万円（同26.3%増）と大幅な増益となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いています。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は4,606億6千8百万円となり、前連結会計年度末より236億2千9百万円増加いたしました。これは、商標権が121億6千6百万円、投資有価証券が73億2千5百万円、受取手形及び売掛金が66億9千万円、それぞれ増加した一方、現金及び預金が30億6千2百万円減少したこと等によるものであります。

負債総額は1,558億1千万円となり、前連結会計年度末より4億9千1百万円減少いたしました。これは、長期借入金が163億8千9百万円減少した一方、短期借入金が179億9千6百万円増加したこと等によるものであります。

また、純資産につきましては3,048億5千7百万円となり、前連結会計年度末より241億2千万円増加いたしました。これは、利益剰余金が189億2千1百万円、その他有価証券評価差額金が41億5千1百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。

なお、第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度末との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いています。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

〔2026年3月期 通期の連結業績予想〕

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	338,500	39,500	44,000	32,000	141.62
今回修正予想(B)	340,500	40,500	46,500	33,000	146.04
増減額(B-A)	2,000	1,000	2,500	1,000	—
増減率 (%)	0.6	2.5	5.7	3.1	—

連結業績予想につきましては、当第3四半期連結会計期間でアジアセグメント及びアメリカセグメントが想定を上回り好調に推移したため、2025年11月13日に公表した連結業績予想を修正いたします。売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益全てが前回発表を上回り増収増益となる見込みです。なお、為替レートは1ドル150円、1中国元20.82円を想定し修正しております。

詳細につきましては、本日（2026年2月12日）公表いたしました「業績予想および配当予想の修正（増配）のお知らせ」をご参照ください。

※上記の予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	77,161	74,099
受取手形及び売掛金	47,129	53,820
電子記録債権	23,261	20,481
商品及び製品	36,386	37,336
仕掛品	5,059	5,520
原材料及び貯蔵品	20,135	23,311
その他	9,255	8,998
貸倒引当金	△510	△457
流动資産合計	217,879	223,109
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,288	33,328
その他（純額）	57,162	57,013
有形固定資産合計	90,451	90,342
無形固定資産		
商標権	26,955	39,121
のれん	34,793	33,024
その他	9,484	9,156
無形固定資産合計	71,233	81,302
投資その他の資産		
投資有価証券	46,427	53,753
退職給付に係る資産	2,149	2,232
その他	16,282	17,663
貸倒引当金	△7,484	△7,826
投資その他の資産合計	57,375	65,822
固定資産合計	219,060	237,467
繰延資産		
社債発行費	99	90
繰延資産合計	99	90
資産合計	437,039	460,668

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,050	22,433
電子記録債務	3,006	1,697
短期借入金	7,035	25,032
未払費用	20,138	20,155
未払法人税等	5,975	6,117
賞与引当金	4,161	2,181
役員賞与引当金	65	60
その他	35,175	32,183
流動負債合計	94,608	109,860
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	25,370	25,330
長期借入金	17,818	1,429
退職給付に係る負債	1,770	1,791
債務保証損失引当金	3	-
その他	16,731	17,399
固定負債合計	61,693	45,949
負債合計	156,302	155,810
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,504	6,504
利益剰余金	231,713	250,635
自己株式	△9,939	△9,939
株主資本合計	228,278	247,200
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,466	13,617
為替換算調整勘定	23,820	24,888
退職給付に係る調整累計額	1,425	1,368
その他の包括利益累計額合計	34,711	39,874
新株予約権	382	382
非支配株主持分	17,363	17,399
純資産合計	280,737	304,857
負債純資産合計	437,039	460,668

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	225,895	253,071
売上原価	97,126	110,753
売上総利益	128,768	142,317
販売費及び一般管理費	96,808	108,742
営業利益	31,960	33,575
営業外収益		
受取利息	982	784
受取配当金	545	4,402
持分法による投資利益	154	138
為替差益	-	1,480
その他	728	1,255
営業外収益合計	2,412	8,061
営業外費用		
支払利息	564	913
為替差損	55	-
貸倒引当金繰入額	352	342
その他	323	528
営業外費用合計	1,296	1,784
経常利益	33,076	39,852
特別利益		
投資有価証券売却益	2,224	4
関係会社株式売却益	39	-
国庫補助金	55	-
特別利益合計	2,318	4
特別損失		
減損損失	16	-
固定資産圧縮損	55	-
投資有価証券評価損	811	1,091
関係会社株式評価損	23	-
特別損失合計	906	1,091
税金等調整前四半期純利益	34,488	38,765
法人税等	10,085	10,424
四半期純利益	24,402	28,341
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△342	62
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,744	28,279

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	24,402	28,341
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	4,151
為替換算調整勘定	1,440	1,075
退職給付に係る調整額	△30	△57
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△9
その他の包括利益合計	1,429	5,159
四半期包括利益	25,831	33,500
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,364	33,448
非支配株主に係る四半期包括利益	△532	52

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

また、第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間に係る各数値について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	7,897百万円	11,190百万円
のれんの償却額	679百万円	1,519百万円

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社であったロート・メディリュクス・ヨーロッパ社は重要性が増したことにより、連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント (注)1					その他 (注)2	合計	調整額 (注)3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高 顧客との契約から生じる収益	126,245	15,147	13,410	68,547	223,351	2,543	225,895	—	225,895
(1) 外部顧客への 売上高	126,245	15,147	13,410	68,547	223,351	2,543	225,895	—	225,895
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	2,836	1,473	123	4,117	8,550	69	8,619	△8,619	—
計	129,082	16,621	13,533	72,664	231,902	2,612	234,515	△8,619	225,895
セグメント利益	18,483	1,084	971	10,513	31,054	210	31,264	696	31,960

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、オーストリア等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額696百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「アジア」セグメントにおいて、ユーヤンサン・インターナショナル社の株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、32,258百万円であります。

「ヨーロッパ」セグメントにおいて、モノ社の株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては、1,364百万円であります。

また、「日本」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16百万円であります。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、ユーヤンサン・インターナショナル社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。また、第2四半期連結会計期間において、モノ社の株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の「アジア」のセグメント資産が67,883百万円、「ヨーロッパ」のセグメント資産が11,297百万円、「その他」のセグメント資産が340百万円増加しております。

4. 第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント (注) 1					その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 4
	日本	アメリカ	ヨーロッパ	アジア	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	126,677	15,554	17,165	91,087	250,483	2,587	253,071	—	253,071
(1) 外部顧客への売上高	126,677	15,554	17,165	91,087	250,483	2,587	253,071	—	253,071
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,518	1,263	133	4,387	9,302	44	9,347	△9,347	—
計	130,195	16,818	17,298	95,474	259,786	2,632	262,418	△9,347	253,071
セグメント利益	17,963	1,017	579	13,283	32,843	226	33,069	505	33,575

(注) 1 「アメリカ」の区分は米国、ブラジル等の現地法人の事業活動、「ヨーロッパ」の区分は英国、ポーランド、オーストリア等の現地法人の事業活動、「アジア」の区分は中国、シンガポール、マレーシア、ベトナム等の現地法人の事業活動を含んでいます。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリアの現地法人の事業活動を含んでいます。

3 セグメント利益の調整額505百万円は、全額がセグメント間取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

ユーヤンサン・インターナショナル社との企業結合

2024年6月3日に行われたユーヤンサン・インターナショナル社との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っておりましたが、第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額44,792百万円は、会計処理の確定により12,533百万円減少し、32,258百万円となっております。のれんの減少は、主に仕掛品が93百万円、商品及び製品が465百万円、商標権が26,527百万円、無形固定資産のその他が884百万円、固定負債のその他が5,873百万円、非支配株主持分が9,441百万円それぞれ増加したことによるものです。また、前連結会計年度末の商標権は26,110百万円、無形固定資産のその他は863百万円、固定負債のその他は5,664百万円、利益剰余金は3,268百万円、非支配株主持分は5,689百万円それぞれ増加し、のれんは12,353百万円、為替換算調整勘定は3百万円それぞれ減少しております。前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、売上原価が228百万円、販売費及び一般管理費が73百万円それぞれ増加し、法人税等が95百万円減少したことにより、売上総利益が228百万円、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が301百万円、四半期純利益が206百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が62百万円それぞれ減少しております。

モノ社との企業結合

2024年8月23日に行われたモノ社との企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っておりましたが、第1四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額1,715百万円は、会計処理の確定により350百万円減少し、1,364百万円となっております。のれんの減少は、無形固定資産のその他が892百万円、固定負債のその他が205百万円、非支配株主持分が336百万円それぞれ増加したことによるものです。また、前連結会計年度末の無形固定資産のその他は891百万円、固定負債のその他は202百万円、利益剰余金は2百万円、為替換算調整勘定は10百万円、非支配株主持分は328百万円それぞれ増加し、のれんは347百万円減少しております。前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が5百万円増加し、法人税等が2百万円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が5百万円、四半期純利益が2百万円それぞれ減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益が1百万円増加しております。